

朝日 歌壇 俳壇



「日曜日のブローチ 07」 junaida

俳句時評 蛇笏賞「高天」の芸

岸本 尚毅

今年の蛇笏賞に決まった三村純也「高天」(朔出版)に「雪ちらとバレンタインの日なりけり」という句がある。
この表現はよくある。サンプルとして俳誌「ホトトギス」一九九八年六月号を調べると、「義理果たすバレンタインの日なりけり」のような句が十数句あった。このほか「妻と娘に」「厨に娘」「品選ぶ」「縁薄き」「無視できぬ」「まなざしの」「気がねなき」「夢かなふ」「ほろ苦き」「面映ゆき」など。多

くの句は「バレンタインの日なりけり」の上五に、バレンタインデーに関わる人の子や心の動きをそのままの形で詠みこんでいる。
ところが「雪ちらと」は異例だ。バレンタインデーとは直接の関係がない。おや、雪だ。そういえば、今日はバレンタインデーだった……。そんなことをとりとめもなく考えている初老の男性の心理(懐かしさや寂しさ、ほのかな含羞など)が、そこはかとなく伝わってくる。

「汀子遊き吾等老いゆく虚子思かな」と詠んだ三村は、高浜虚子の「ホトトギス」の系譜の俳人。芸能などの文学研究者でもある。類型の反復と変奏を通じて洗練の度を高めてゆく「芸」の側面が俳句にもあることを、この句集は強く感じさせる。
「陵の映り余れる代田かな」(木下尚江の句と見れば穴感)の写実。《謡初微醺ながらも膝揃へ》《年寄の隠れ遊びの春の宵》の洒落。《すてこの時に限つて人が来る》の可笑しみ。——これらの句には、斬新さや特異な個性とは次元の違う「芸」の魅力がある。(俳人)

日本歌人クラブ各賞 日本歌人クラブ大賞は、「抒情の構造 喪われた故郷」の位相」ならびに「三年有半」を中心とした長年の功績に対して内藤明さんに贈られた。日本歌人クラブ賞は黒木三千代さんの「草の譜」、同新人賞は久永草太さんの「命の部首」、同評論賞は内藤明さんの「抒情の構造 喪われた故郷」の位相」が受賞した。

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があり、郵便での投稿は無地のほかは1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます(週に2作品まで)。QRコードから。

長谷川 耀選

みしみしと節太る闇夜かな (尼崎市) 吉川 佳生
九十はやはりめでたしチュリップ (栃木県壬生町) あらゐひとし
母の日も母の残せし小さき家 (越谷市) 中野 光宏
壁でなく橋を教皇春は近く (横浜市) 萩原 卓
☆北限の花を惜しみて春惜しむ (長野市) 縣 展子
米のこと米国のこと春つれ (八王子市) 額田 浩文
二浪決め上京せし日青嵐 (東京都足立区) 三角 逸郎
花の塵はとなく土となる模様 (相模原市) 井上 裕実
桜草母が愛した椅子に置く (藤沢市) 井上 直子
女房も畳も替へず新茶かな (草津市) あびこたろう

【評】一席。あまたの節を鳴らして節が伸びる。「みしみし」と頼もしい。二席。「佐藤愛子氏へ」とある。「やはり」の反転力。三席。苦勞を重ねて守った家。こんなに小さいとは。十句目。新しければいいというものではない。女房は。

大串 章選

嬰よりも爺の昂り初轍 (高山市) 大下 雅子
☆北限の花を惜しみて春惜しむ (長野市) 縣 展子
春落葉木々は昔を落とし切る (高松市) 信里由美子
花吹雪同じ空よりミサイルも (西海市) 前田 一草
老い二人守る山田の手植多かな (東京都世田谷区) 吉野 新一
廃校の掲揚台に鯉轍 (日南市) 宮田 隆雄
春深し死を待つ人に逢ひに行く (佐賀県基山町) 古庄たみ子
山麓の一軒だけの鯉轍 (玉野市) 加門 美昭
春耕は山に囲まれ独りかな (長岡京市) 寺嶋 三郎
鯉轍泳いでも泳いでも同じ (横浜市) 生田 康夫

【評】第1句。「爺の昂り」がよく分かる。「初轍」は男児の初節句に立てる轍のこと。第2句。これでいよいよ今年の春も終り。「北限の花」が心に染みる。第3句。晩春には古葉を落とし切る種や橋。この見事な断捨離、人間も見習うべきか。

高山れおな選

佐保姫の螺旋階段上がる音 (柏市) 田頭 玲子
☆黄金週間必死で遊びけり (町田市) 枝澤 聖文
やまあひに大なる腫のぼり (さいたま市) 春日 重信
貴賤なき世にも楊貴妃様かな (船橋市) 齊木 直哉
行く春やスマホに指を置いたまま (小田原市) 岩淵 和信
大宇宙全てが波動鯉のぼり (新富市) 中西 洋
☆北限の花を惜しみて春惜しむ (長野市) 縣 展子
薬に縋るまた新前か青蛙 (三島市) 高安 利率
あんばんのよく売るる日よ風薫る (横浜市) 岩本健一郎
春暑し夏が忍びと口口に (いわき市) 吉田 恵

【評】田頭さん。佐保姫があればこれする句はよくあるが、これはハイヒールを履いたキャリアウーマン風？ 枝澤さん。大破調ながら十七音だ。お蔭でなるほど必死な感じが伝わるような。春日さん。腫のクロースアップがもたらす豊かな気分。

小林 貴子選

てりてりと春泥なにか生まれさう (日高市) 新井 文
連休の新幹線を止める蛇 (京都市) 室 達朗
☆黄金週間必死で遊びけり (町田市) 枝澤 聖文
もしかして世渡り上手吹流し (東京都中野区) 吉田 徹夫
差し色といふには淡き山の余花 (筑後市) 近藤 史紀
労働歌祭の後の忌野忌 (富士市) 村松 敦規
教皇の棺木製風薫る (久留米市) 塚本 恭子
光澤す二重三重四重若楓 (国分寺市) 後藤真里子
紐引けば麻も地力を出しにけり (松山市) 矢野 宏治
遠足をじつと見てゐる異邦人 (寝屋川市) 今西 富幸

【評】一句目。春の大地に出来る一面のぬかるみから、何が生まれるのだろう。二句目。色々なニュースに驚かされるが、まさか新幹線遅延の原因が蛇とは。三句目。のんびりしようよ。いや頑張っって遊ぶ。四句目。吹流しが人間くさく見える。